5．年表

電気科学館50年史の年表を再録しておく。

Ⅳ　年　表

	電気科学館のできごと	社会のできごと
1923（大正12）		関東大震災が発生する。
10．1	大阪電灯㈱を大阪市が買収、大阪市電気局として発足、電灯供給事業開始。	
1932（昭和７）		上海事変。ダイヤル式公衆電話機を設置される。
7．－	電気局内に電灯市営10周年記念事業として、電気科学館建設の議あがる。電気科学館建設委員会組織。	イギリスのチャドウイック氏中性子を発見。
1933（昭和８）		滝川事件おこる。三陸地方の大地震により大津波が発生。皇太子明仁親王誕生。
5．－	電気科学館陳列実務委員会発足。	
12．上旬	大阪府知事より建築が認可。	
1934（昭和９）		国産パーマネント機械第１号が発売され、一般にもパーマネントが普及。
6．1	四つ橋の運輸事務所跡地で地鎮祭を行う。建築施工は、㈱清水組。	
9．21	第１室戸台風により大阪地方大災害、工事中の杭打櫓が北方に倒壊、北隣㊥パン会社家屋を破損。	
12．－	プラネタリウム導入の議あがる。	
1935（昭和10）		湯川秀樹氏中間子理論の発表。丹那トンネルの開通。
1．－	電気科学館開館準備委員会設置。	
5．17	プラネタリウム購入を市会へ提案、市会内に特別調査委員会を設置。	
6，1	市会同委員会通過。	
6．29	市会本会議において議決、新設計による工事再開。	
12．9	プラネタリウムを三井物産を通じて、ドイツ、カール・ツァイス社へ発注。	
1936（昭和11）		テレビ実験放送アメリカで開始。五味一明氏とかげ座新星発見。D51型貨物用蒸気機関車完成。古賀良彦氏レントゲン間接撮影法を考案。
5．5	天象儀照明調査委員会設置。	
12．1	電気科学館条例が施行。大阪市役所電気局外線課の項の次に、電気科学館、経営係、設備係、陳列所係となる。	
12．5	同上施行細則公布。	
12．11	小畠康郎館長以下管理職発令。	
12．15	小畠康郎館長以下着任、直ちに開館準備実務開始。	
12．23	プラネタリウム大阪港到着。	
12．24	プラネタリウム搬入。	
1937（昭和12）		サイクロトロン、大阪帝大理学部・理化学研究所に完成。日中戦争はじまる。
1．6	プラネタリウム通関手続完了。	
1．7	プラネタリウム組立開始。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
1．15	電気館展示品搬入据付開始。	
1．21	建築及び附帯設備一式工事竣工、経費次の通り。 建物建設費　113万円 機械器具費　57万円 （プラネタリウム購入費45万9千円を含む） 備品費　24万円 合計　194万円	
2．20	プラネタリウム組立完了、試運転。	
2．28	電気館展示及びすべての開館準備完了。	
3．1	各部にわたる市検収終了。	
3．2	新聞記者招待。	
3．4	東久邇宮稔彦王殿下ご視察。	
3．5	市会議員及び建設に功労のあった各方面の関係者特別招待。	
3．7	東亜天文学会々員特別招待、140名。	
3．13	一般公開。 入場料金　電気館　20銭、天象館　40銭	
4．9	米国ベル電話研究所コルビッツ博士一行視察。	
7．20	日中戦争勃発、職員の中に応召者出はじめる。	
1938（昭和13）		アメリカの「G・E社」実用的な螢光ランプを発表。国家総動員法発令。東京の青バス、木炭車へ改造。電力国家管理実現。
1939（昭和14）		東洋レーヨン・ナイロン66の合成に成功。NHK技術研究所、有線によるテレビジョンの実験放送を公開。
―．―	戦時体制強まり館員の応召者相次ぐ。	
―．―	軍部の科学知識向上のため利用活発。	
1940（昭和15）		イギリスの「クィーン・エリザベスI世号」完成。日独伊3国軍事同盟成立。小西六、国産のカラーフィルムを発表。
1941（昭和16）		ドイツでは、計数型の計算機が製作。日ソ中立条約締結。関門海底トンネル開通。
12．8	第2次世界大戦開戦。	
1942（昭和17）		アメリカのブッシュ氏を中心にリレー・真空管式アナグロ計算機第2号機完成。アメリカにおいて、世界最初の原子炉運転開始。㈱日立製作所中央研究所、電子顕微鏡を完成。
2．3	電気局直属課となる。1階陳列所の事業不可能となり閉鎖。	
4．1	電気供給事業が関西配電㈱に移管。	
4．18	第1回目の空襲警報発令実戦において当館管制器による市内25カ所の防空サイレンの一斉吹鳴。	
6．1	市役所事務章程改正、市民局へ移管されI類事業所となる。	
6．11	電気科学館事務章程施行される。	
1943（昭和18）		イタリアの無条件降伏。野球用語の日本語化を決定。
1．24	北海道における皆既日食観測隊に当館高城武夫	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
	技手参加。（皆既日食２月５日）	
７．１	５階原理館を戦時体制下の科学教育強化のため中央実験場に改装。館員の応召者はますます増える。 昭和18年から昭和19年にかけてエレベータ及び冷凍機を金属回収のため供出。	
1944（昭和19）		アメリカのワックスマン氏ストレプトマイシンの発見。アメリカのケン氏がＩＢＭ社の協力で、最初のリレー式大型ディジタル計算機Ｉ完成。
－．－	昭和18年秋頃より軍部の利用活発化し、これに対する科学教育のため当館小谷亀一及び山本俊明両技手が陸軍省軍属となる。	
1945（昭和20）		原子爆弾発明。最初のチューブ螢光管が市販される。真空管式電子計算機ＥＮＩＡＣ完成。（以上アメリカ）広島、長崎に原子爆弾投下第２次大戦終る。朝鮮南北に分裂。
１．４	海軍兵学校より展示品の一部移譲申し出あり、これを断る。	
３．13	大阪大空襲、当館もプラネタリウムを除き被災、倉庫（元市電変電所跡、現四つ橋ビル）も全焼、収蔵されていた展示品、備品等全焼。	
３．14	陸軍岸和田部隊250名駐屯、館附近の整理、警備に当る。	
３．15	再び大空襲、附近の市民が多数本館へ避難。	
４．４	大西部隊下士官以下５名常駐し、避難者の整理に当る。	
４．30	上嶋冬彦氏第２代館長に就任。１類事業所解かれ、市民局町会課所属となる。	
５．１	混乱のため電気館閉鎖、５階のみ希望者に観覧させる。	
６．１	プラネタリウムも閉館	
８．15	終戦。	
９．11	教育局社会教育課所属となる。	
1946（昭和21）		第１回国民体育大会開催。日本国憲法公布。
２．21	混乱と絶望の市民に希望と憩いの場を与えるため、無事であったプラネタリウムを使い星と映画の会を開催、毎日３～４回上演、市民の好評を博する。（会費１人３円、東亜天文学会共催）	
４．１	入場料金改正。 電気館　50銭、天象館　１円 昭和21年から24年にかけて被爆窓硝子を逐次補修。	
11．１～10	アメリカ・ガールズ・ハイスクールに贈呈する絵画展開催。	
1947（昭和22）		第１回国体スケート大会開催。新学校教育法による六・三制が実施。
１．８～24	南海道震災報告展覧会開催。	
２．23～３．３	発明工夫作品展開催。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
5．1	入場料金改正。 電気館　2円、天象館　4円	
6．12	本来のプラネタリウム投影に戻し、6階のみ開館し営業。	
11．1	入場料金改正。 電気館　5円、天象館　10円	
1948（昭和23）		パロマ山天文台に反射大望遠鏡創設。カイパー氏天王星の第5衛星ミランダを発見。「ベル電話研究所」のバーディーン氏、ブラッタン氏、ショックレー氏によるトランジスタを発明。（以上アメリカ）
5．1	入場料金改正。 電気館　10円、天象館　20円	
9．15	田中六郎氏第3代館長に就任。	
10．1	電気館展示品のうち、使用可能なものを3、4、5階に集め電気館も再開。 民生局2類事業所となる（経営係、技術係）。	
1949（昭和24）		アメリカで原子時計発明。湯川秀樹氏の中間子論に対し、ノーベル物理学賞授与。
1．1	入場料金改正。 電気館　20円、天象館　30円	
4．－	レコード吹込事業再開。	
1950（昭和25）		朝鮮戦争おこる。
3．13～15	戦後初めての開館記念行事としてプラネタリウムと科学映画を見る会開催。	
9．3	ジェーン台風のため建物一部破損。	
1951（昭和26）		民間放送の開始。オランダのオールト氏銀河系の構造解明。ロンドンで大英博覧会を開催。アメリカのショックレー氏、スパークス氏、ティール氏、によって接合型トランジスタの発明。全国9電力会社発足。
4．7	義宮殿下（現常陸宮）一行ご視察。	
5．30	戦時中金属回収のため供出した、プラネタリウム用冷凍機復活。（960万円）	
9．1	入場料金改正。 電気館　20円、天象館　40円	
1952（昭和27）		対日講和条約・日米安保条約発効。十勝沖地震がおこる。
8．－	屋上防水工事及び北壁改修、大地球儀消える。（360万円）	
1953（昭和28）		ＮＨＫ、東京地区テレビ放送開始。日本テレビ、民放初の本放送開始。東京都内赤電話設置。
5．－	テレビジョン解説装置5階に完成。（100万円）	
7．－	幼稚園児を対象として約1カ月間七夕まつり開催、以後毎年実施。	
12．20	平塚元電気局長を中心として、電気メーカー等の協力による電気館大改装の計画の議あがる。	
1954（昭和29）		「第5福竜丸」ビキニでのアメリカによる水爆実験で被災。日本でトランジスタ生産開始。アメリカのピアソン氏、フェーラー氏、シャピン氏によるＳｉ太陽電池の発明。ソ連で世界最初の原子力発電所運転開始。電気掃除機、冷蔵庫、洗濯機が三種の神器とよばれる。
5．－	上記を実行するため改装案により関係官公庁及び電気メーカーに協力方要請活動開始。	
8．1	上記改装工事に着手。（620万円）	
8．31	電気館新装工事並びに展示出品完成。	
9．15	第1次電気館改装、開館披露式挙行。 （協力会　58社　151点出品、費用4,500万円）	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
9．25	高松宮殿下ご視察。	
11．24	電気館の出品者からひきつづき協力を得るため電気科学館協力会が結成され発足。会長に関西電力㈱社長太田垣士郎氏選出。	
1955（昭和30）		家庭電化時代到来。電気釜が発売。
3．18	屋上危険防止柵改修。（25万円）	
5．1	2階家庭電気館の改装。	
12．28	博物館相当施設となる。（文部省告示第108号）	
1956（昭和31）		科学技術庁発足。東海道本線の全線電化が完成。
1．－	当館に原子力館を設置すべきとの議あがる。	
4．1	入場料金改正。 電気館　20円、天象館　60円	
5．－	原子力館を5階に設置する案を決定し協力会々員に説明して出品を要請。戦時中供出されたエレベータ（1号）の復活。（878万円）	
11．16	5階原子力館完成。 （協力会　11社　13点出品、費用2,070万円）	
1957（昭和32）		ソ連が初の人工衛星「スプートニク1号」打ち上げに成功。南極観測隊、オングル島に上陸、昭和基地と命名。江崎玲於奈氏、エサキダイオードの発明。国産ロケット1号機カッパーC型、発射に成功。NHKと日本テレビがカラーテレビ実験局開局。五島プラネタリウム開館。
3．20	開館20周年記念式典挙行。電気館展示品の一部改装。8階に人工衛星展示室を作る。プラネタリウム用人工衛星投影器完成。	
5．22	プラネタリウム機械全般のオーバーホール開始、附属機器類共に整備。（960万円）	
7．－	中学校3年生100名を対象とした夏期特別科学科講座開始、以後毎年実施。	
1958（昭和33）		アメリカでIC開発。アメリカの人工衛星エクスプローラ1号の打ち上げ成功。関門国道トンネル開通。
9．1	入場料金のうち、中学生を小人扱いにする事が決定され実施。	
10．10	プラネタリウム新形月投影機購入。（478万円）	
10．1～25	大阪の町人天文学者、間長涯遺業展開催（大阪まつり協賛）。	
1959（昭和34）		ソ連が月ロケット、ルナ2号を打ち上げ月に到着。古在田秀氏、人工衛星の軌道計算から地球の重心が理論的にずれていることを発表。伊勢湾台風。
1．11	塔屋内部照明設置。（56万円）	
2．－	外装改修。（89万円）	
7．6	第2次電気館改装。（市費用118万円） （協力会　58社　115点出品、費用5,500万円）	
7．14	中村一雄第4代館長に就任。	
9．19	ステレオ、コンサートを開始。 （5階で毎月第2土曜日）	
10．－	大阪市から協力会に補助金年間100万円交付することに決定、本年度下半期分交付。	
12．29～30	NHK・TVで2日間にわたり電気館全館の紹介放送。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
1960（昭和35）		ソニー、世界初のトランジスタテレビを発売。
2．1	協力会機関誌四つばしを創刊（月刊）。	ＮＨＫほか四社がカラーテレビ本放送を開始。
9．10	カラーテレビの実用化実験放送が開始されＮＨＫより５階にカラー受像機が出品される。	アメリカのメイマン氏、固体レーザの発明。テレビ受信機生産高357万台、米国についで２位。明石市立天文科学館開館。
1961（昭和36）		ソ連宇宙船ウォストーク１号最初の有人飛行で
3．1	プラネタリウム、ドーム屋根アルミ張り及びドーム内スクリーン張替。（531万円）	地球１周に成功。
1962（昭和37）		日本が通信衛星テルスター打ち上げる。北陸トンネルが開通。国産中型旅客機ＹＳ－11、初飛
1．5	プラネタリウムの演出時間割及び電気館の開演時間を一部変更して来館者へのサービスを強化。	行に成功。富士ゼロックスで国産初の電子複写機を開発。原子力研究所国産１号炉、臨界に達
3．12	開館25周年記念式挙行。第３次電気館改装。（協力会　61社　140点出品、費用9,000万円）	する。市立名古屋科学館開館。
10．1	プラネタリウム観覧椅子及び床の改修。（435万円）	
11．30	電話交換機をクロスバ式に改修。（430万円）	
1963（昭和38）		日米間テレビ宇宙中継放送実験に成功、ケネディ
2．1	毎日曜日に日曜科学映画会開始、以後61年まで実施。	大統領暗殺ニュース受信。
6．－	プラネタリウム用冷房装置が地下水汲上規制のため、冷凍機及び冷却塔を新設。（615万円）	
6．27	教育委員会事務局、社会教育部所属となる。	
8．22	開館以来有料入場者が1,000万人を越える。	
10．16～19	全国博物館大会開催（大阪）。	
11．12～3．31	各階庇その他補修。（400万円）	
1964（昭和39）		アメリカが世界初の静止通信衛星シンコム３号
3．25～4．5	医用電子機器展当館５階で開催。	打ち上げ、インテルサット誕生。東大宇宙航空
6．23	全国プラネタリウム連絡協議会（４館）発起人会開催（東京・五島プラネタリウム）。	研究所発足。東海道新幹線営業開始。オリンピック東京大会開催。
8．10	Ｂ階段８階北面改修。（171万円）	
11．26	給水主管改修。（70万円）	
1965（昭和40）		アメリカの人工衛星、マリナー３号火星初探査。
3．－	春休みの期間中春休み科学映画会開始、以後61年まで実施。	フランス初の人工衛星Ａ－１打ち上げる。ソ連
4．2	入場料金改正。 電気館　40円、天象館　70円	が最初の宇宙遊泳に成功。ノーベル物理学賞、朝永振一郎氏に授与。日本原子力発電東海発電所、初の営業用原子力発電に成功。
6．29～7．1	全国プラネタリウム連絡協議会（４館）第１回総会開催（市立名古屋科学館）。 中村館長が初代会長となる。	地下鉄『四つ橋』開通。
8．31	塔屋展望室改修。（700万円） 地下鉄四つ橋駅と当館地下連絡通路完成、１階に電気相談所を設置。	
10．2	第４次電気館改装。（1,100万円） （協力会　57社　124点出品、費用7,500万円）	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
10．2～11．21	1階にアメリカ大使館出品の宇宙船サーベイヤ等模型を展示。アメリカ宇宙展開催。 （アメリカ大使館、朝日新聞社共催）	
1966（昭和41）		ソ連ルナ9号世界初の月面軟着陸に成功また、
5．20～28	保安用電気機器展開催。	金星3号初の金星着陸。東京天文台岡山天体物
6．4	無線操縦式ロボットを公開。愛称募集、入場者殺到。（80万円）	理観測所、アメリカのパロマ天文台と協力して X線星ScoX－1の位置を確認。アメリカのジェ
6．17	ロボットの愛称スター君に決定、表彰式行う。	ミニ8号初のドッキングに成功。
6．29～7．1	全国プラネタリウム連絡協議会（4館）、第2回総会開催（当館）。	
10．20	東、南、西面外装改修。（2,000万円）	
11．22～12．4	新しい防犯器具展開催。	
12．9	全国プラネタリウム連絡協議会（4階）の解説担当者研修会開催（当館）。	
1967（昭和42）		アメリカのボベック氏、磁気バブルメモリの発
3．13	開館30周年記念式挙行。関西電力㈱よりシンボルタワー1階へ寄贈。協力会より火星へ行く宇宙船の展示装置を1階に寄贈。 アマチュア無線局開局、初発信を行い、明石市立天文科学館、市立名古屋科学館と交信。	明。国際電々、通信衛星用世界初の標準地上局完成。イギリスのヒーウィッシュ氏がパルサーを発見。
3．25	開館30周年記念講演会開催。 （講師、泉田行夫氏、6階天象館）	
3．28	1日館長に歌手坂本スミ子氏を招く。	
3．－～5．21	ロボット・スター君が満1才を迎え、ロボット写生会を開催。作品展を開催、優秀作品を表彰。 （昭．42～49）	
7．3	プラネタリウム用ズーム投影機及び人工衛星投影機購入。（79万円）	
8．1～9．1	第1回天体望遠鏡展開催。 （昭．42～49の間で5回開催）	
8．7	配電電圧6kV昇圧に伴う受電設備改修。	
9．12	幼稚園児を対象として約2週間お月見開催、以後毎年実施。	
11．21～26	家庭電化をささえる新しい配電用資材展開催。	
1968（昭和43）		アメリカのアポロ8号世界初の有人月周回飛行。
3．25	1日館長にコメディアンの平参平氏を招く。	アメリカのオプジンスキー氏、アモルファス半
5．28～6．9	明日をひらく教育の機械化展開催。	導体発見。川端康成氏ノーベル文学賞授与。
7．1	プラネタリウム用線画投影機購入。（38万円）	
7．16～26	展示品及び建物などを題材に写した、写真撮影会、作品発表展開催。	
12．－	小、中学生を対象に約2ケ月間学習投影を開催、以後毎年実施。	
12．－	ボーイ・ガールスカウト特別公演を日曜日第1	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
	回開演の部で開催、以後毎年実施。	
1969（昭和44）		アメリカの宇宙船「アポロ11号」が人類初の月面到着。宇宙開発事業団設立。コンコルド初飛行。京都市青少年科学センター開館。
3．31	ネオン改修。（98万円）	
4．11	浦野俊章第５代館長に就任。	
5．2	模型鉄道運転会を３日間開催、以後毎年実施。	
10．1	館蔵品基礎原理実験装置の改修。（125万円） 電気館各階室内塗装。（392万円）	
1970（昭和45）		東大宇宙航空研究所、わが国初の人工衛星「おおすみ」打ち上げ成功、世界で４番目。中国初の人工衛星「東方紅」打ち上げ成功。大阪で日本万国博覧会開催。
1．6	第５次電気館改装。 （協力会　38社　88点出品、費用10,000万円）	
4．1	入場料金改正。 電気館　50円、天象館　70円	
8．1～30	アマチュア天文写真展開催。	
9．8～10	全国プラネタリウム連絡協議会（４館）第６回総会開催（当館）。	
10．1	給水管北系統改修。（92万円）	
11．25～29	快適な生活を営むための新しい電化機器展開催。	
1971（昭和46）		ソ連宇宙ステーション「サリュート」打ち上げ成功。円為替変動相場制に移行。
7．20～25	鉄道展の開催、以後毎年10月に実施。	
8．3～29	国際電気通信100年記念展開催。	
11．15	低圧配電盤改修。（677万円）	
12．1	１回目の冷凍機オーバーホールを実施。（52万円）	
1972（昭和47）		冬季オリンピック札幌大会開催。奈良県の高松塚古墳から、極彩色の壁画が発見。カシオ、ミニ電卓を発売。沖縄県発足。
4．15	辰巳博第６代館長に就任。	
5．－	冷却塔更新。（114万円）	
8．5	天体望遠鏡の作り方講習会開催（2階集会室）。	
8．－	防災用救助袋６、７階設置。（140万円）	
11．21～22	全国プラネタリウム連絡協議会が14館で新規発足し、第１回総会開催（東京・五島プラネタリウム）。	
1973（昭和48）		アメリカが宇宙ステーション「スカイラブ１号」打ち上げ成功、またパイオニア10号初の木星接近と観測に成功。江崎玲於奈氏、ノーベル物理学賞授与。第１次オイルショック。
3．－	避難誘導灯、屋上消防隊進入口等設置。（75万円）	
4．－	小、中学生対象にジュニア天文講習会開催、以後毎年実施。	
8．1～31	天体望遠鏡展開催。	
8．7～9	天体観望会開催、当館屋上。	
11．13	高架水槽及び揚水、消火ポンプ等改修。（270万円）	
12．17	電話設備改修。（427万円）	
1974（昭和49）		宇宙開発事業団試験用ロケットＥＴＶ－１を打ち上げ。佐藤栄作氏、ノーベル平和賞授与。
1．11	コホーテク彗星と土星の観望会開催、当館屋上。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
3．－	コンピュータによる計算のすすめ方展示装置及びコンピュータ装置購入。 （宝くじ協会寄贈、1,000万円）	
5．－	コンピュータ教室の開催、以後毎年春・夏休み実施。	
12．－	消火栓改修。（168万円）	
12．20	第６次電気館改装。 （協力会　39社　105点出品、費用12,000万円） 改装に伴う展示パネル等改修。（150万円） マジックルーム展示装置購入。（360万円） 太陽電池展示装置購入。（95万円） 太陽エネルギー解説展示装置購入。（105万円） プラネタリウム用スカイライン投影機購入。 （358万円）	
1975（昭和50）		アメリカ「アポロ宇宙船」とソ連「ソユーズ19号」がドッキング。宇宙開発事業団Ｎロケット１号機で技術試験衛星Ｉ型「きく」打ち上げ。山陽新幹線開通。沖縄海洋博覧会開催。
2．7	大阪市業務改善提案でコンピュータ解説装置が最優秀賞を受賞。	
4．－	２回目の冷凍機オーバーホール及びダンパ修理。 （201万円） 電気館、７階及び管理室冷房設置。 （1,173万円）	
8．1～31	夏休み工作展開催。（昭．50～57）	
8．－	夏休みエレクトロニクス工作教室開催、以後毎年実施。	
11．13	計算する電気回路原理実験装置購入。（100万円）	
1976（昭和51）		アメリカ、バイキング１号火星に軟着陸、探査実施。
3．－	春休みエレクトロニクス工作教室開催、以後毎年実施。	
4．1	入場料金改正。 電気館　80円、天象館　120円	
4．9	自動火災報知設備設置。（590万円） プラネタリウムドーム内周囲照明用調光装置改修。（90万円） 地下排水ポンプ改修。（196万円）	
5．26～28	全国プラネタリウム連絡協議会第５回総会を大阪で開催。	
1977（昭和52）		宇宙開発事業団初の静止衛星「きく２号」打ち上げ。宇宙開発事業団静止気象衛星「ひまわり」をアメリカの協力で打ち上げ。北海道の有珠山噴火。ニューヨーク大停電。国鉄のリニアモーターカー、浮上実験に初成功。
1．5	自由に書けない絵展示装置購入。（115万円）	
3．12～4．10	40年のあゆみ資料展開催。	
4．12	７階休憩室床改修。（324万円）	
5．18～20	全国プラネタリウム連絡協議会第６回総会開催（市立名古屋科学館）。当館が会長館（２年間）となる。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
12．7	消火用受水槽及び連水管設置。（550万円）	
1978（昭和53）		ソ連原子力衛星コスモス954号カナダに落下。
1．19	クイズファイブ展示装置購入。（190万円）	宮城沖地震。
3．－	プラネタリウム非常出口改修。（60万円）	
10．9	プラネタリウム、スクリーン塗装、椅子修理。（316万円）	
11．6	光築改修。（1,879万円）	
12．23	自家用発電機設置。（485万円）	
1979（昭和54）		アメリカのボイジャー１・２号木星に接近。アメリカのスリーマイル島で原発事故。木曽御岳山噴火。日本電気がパソコン発売。
1．26	エレクトロニクスⅠ原理実験装置購入。（185万円）	
3．20	地下防火区画及び誘導灯等設置。（137万円）	
12．22	第７次電気館改装。 （協力会　39社　103点出品、費用19,000万円） １階ホール改修及びプラネタリウム用暖房新設。（1,434万円） プラネタリウム用朝やけ、夕やけ投影機購入。（70万円） ロボット「ライト君」、１Ｆ宇宙にいどむ、エジソンの部屋など展示装置を購入。（624万円）	
1980（昭和55）		アメリカのボイジャー１号土星に接近３個の衛星を発見。インド初の人工衛星「ロヒニ」打ち上げ。富士通が「マイ・オアシス」日本語電子タイプライター発売。自動車生産台数がアメリカを抜き世界第１位になる。
2．2	エレベータ用メインロープ等取替。（107万円）	
2．5	地下トップライト改修。（130万円）	
4．22	冷水、冷却水ポンプ取替及び冷凍機チューブ化学洗浄、過流探傷検査。（200万円）	
8．28	塔屋改修。（1,407万円）	
10．4	天文学講座を春・秋の毎土曜日で開催、以後毎年実施。	
12．18	エレクトロニクスⅡ原理実験装置購入。（187万円） プラネタリウム用流星投影機購入。（75万円）	
1981（昭和56）		アメリカがスペースシャトル「コロンビア号」打ち上げ。宇宙開発事業団Ｎ－11ロケット１号機で「きく３号」２号機で「ひまわり２号」打ち上げ。福井謙一氏、フロンティア電子論で、ノーベル化学賞授与。札幌市青少年科学館開館。
4．1	入場料金改正。 電気館　120円、天象館　180円	
6．30	太陽像投影装置（ヘリオスタット）購入。（700万円） ３回目の冷凍機オーバーホール。（205万円）	
10．5	南西面、１階東入口庇改修。（2,167万円）	
1982（昭和57）		ソ連の自動惑星間ステーション「金星13、14号」が着陸に成功。地球も含めた太陽系の９つの惑星が太陽から見て95度の扇形の範囲内に全部入る惑星直列が見られた。国鉄が宮崎県浮上式鉄道実験センターでリニアモーターカーの初の有
1．7	プラネタリウム用スカイライン投影機改修。（440万円） エレクトロニクスⅢ原理実験装置購入。（190万円）	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
4．1	南、西、北面窓及びA階段改修。(2,447万円)	人実験に成功。東北、上越新幹線開業。
4．14	笹川久史第7代館長に就任。	
8．一	1日工作相談室を開催（昭．57～59)。	
11．20	プラネタリウム用月位相投影機購入。(104万円)	
	音の性質を調べるⅠ展示装置購入。(232万円)	
1983（昭和58）		日本初の実用静止通信衛星「さくら2号a」打ち上げ。インドネシアで皆既日食が観測。三宅島噴火。
2．19	プラネタリウム、観覧者1,000万人達成。	
3．31	講堂パネル等設置。(159万円)	
	展示ケース購入。(80万円)	
	階段室壁等塗装。(100万円)	
4．20	プラネタリウム用カラーグラフィックス装置購入。(119万円)	
	力率改善用コンデンサ設置。(59万円)	
7．30～9．30	ガリレオの世界展開催。	
8．1	東壁面改修、B階段改修、暖房設置、事務室改修。(4,788万円)	
1984（昭和59）		アメリカは、宇宙開発史上初めて命綱なしの宇宙遊泳に成功。世田谷ケーブル火災。文化人シリーズの新札発行。神戸市立青少年科学館、横浜こども科学館開館。日本初の実用静止放送衛星「ゆり2号－a」打ち上げ。
2．4	音の性質を調べるⅡ展示装置購入。(213万円)	
4．1	電気科学館星の友の会発足。宿直員を廃止して機械警備とする。	
4．14	プラネタリウム解説台拡張及び脈動変光星、透過型万能投影機購入。(105万円)	
	光の原理実験装置購入。(190万円)	
6．8	給水管南系統改修。(394万円)	
8．1～31	瞬間の世界展開催。	
12．22	第8次電気館改装。 （協力会　42社　100点出品、費用26,100万円） 電気館、エレベータホール、玄関塗装及びA階段吹抜改修並びに3、4階窓ガラスに遮光フィルム貼り付け。(630万円) 不思議な力のサイエンス、星座パノラマ展示装置購入。(1,512万円) 透明人間の部屋改修。(250万円) ヘリオスタット追尾装置設置。(40万円)	
1985（昭和60）		青函トンネル貫通。大鳴門橋開通。日航ジャンボ機墜落。科学万博「つくば85」開催。ユニバーシアード神戸大会開催。
4．13	北澤淳第8代館長に就任。	
5．2	冷却塔更新。(179万円)	
5．17	4回目の冷凍機オーバーホール及び起動回路、電動機用高圧ケーブル等改修。(340万円)	
7．16～18	全国プラネタリウム連絡協議会第14回総会開催（札幌市青少年科学館)。当館が会長館（2年間）となる。	

	電気科学館のできごと	社会のできごと
8．1～9．1	ほうき星をたずねて、近づくハレー彗星展開催。	
8．21	8階電気設備等改修。（590万円）	
10．29	6階ホール冷房機設置。（51万円）	
11．1	ハレー彗星のテレホンサービス開始。	
11．12	プラネタリウム用デゾルブ投影機購入。（125万円）	
1986（昭和61）		スペースシャトル「チャレンジャ号」空中爆発。ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故。伊豆大島噴火。ハレー彗星接近によりすいせい、ベガ1、2号、ジオットなどの探査機によって観測。大阪市役所新庁舎落成。
1．7	ロボット「ライト君」修理。（67万円）	
1．21	1階身体障害者、女子便所新設。（396万円）	
2．25	7階床及び屋上パラペット改修。（246万円） エレベータ扉解錠装置取付。（30万円）	
4．1	入場料金改正。 電気館　160円、天象館　240円	
5．1	星空情報テレホンサービス開始。	
5．13	エレベータ用メインロープ等取替。（130万円）	
6．8～7．6	一般からの応募作品「さよならハレー彗星展」開催。	
6．24	展示用コンピュータ装置更新。（220万円）	
7．20～8．31	人工衛星と国際通信展開催。	
9．29	プラネタリウム用ズームスライド投影機購入。（166万円）	
11．14	東側外壁補修。（244万円）	
11．18～20	第1回ワープロ講習会開催。	
12．8	電気設備等改修。（600万円）	
1987（昭和62）		
2．1	ビデオプロジェクター、レーザディスク展示装置購入。（500万円）	
3．13	電気科学館昭和12年3月13日開館以来50年を迎える。	

補遺　1986年－1989年

	電気科学館のできごと	新科学館（●）他のできごと
1986年（昭和61年）		
9.29.		●関西電力より大阪市へ科学技術館の寄付申し出。電気科学館の代替施設とすることが公表される（9.30. 日経新聞）
1987年（昭和62年）		
2.28.		●展示構想委員会第１回会議
4.4.	50周年記念事業、手塚治虫講演会	
5.26.-28.	50周年記念事業、全国プラネタリウム連絡協議会総会開催（場所：なにわ会館）	
7.19-8.30.	天体写真展　～写真でみる星の一生～	
8.2.	50周年記念事業、東亜天文学会総会開催（場所：大阪市立自然史博物館）	
8.		●当初計画より事務室等を拡張決定
9.23.	部分日食（沖縄金環日食）観察会 星の友の会、沖縄へ遠征（36名）	
10.10.-11.8.	「レール115」汽笛一声から115年展	
1988年（昭和63年）		
1.		●建設着工
3.18.	部分日食（小笠原皆既日食）観察会 星の友の会、フィリピン・ダバオへ遠征（38名）	
5.28.-7.3.	黒い太陽と南天の星たち展	日本天文学会春季年会（5.17.-19.、近畿大学）
6.11.-	よつばしぶらもしあたぁ　～星と音楽のつどい～　始まる（第２、第４土曜日）	
7.20.-8.31.	夏休みエレクトロニクス工作展	
10.	友の会主催火星大観望会（場所：長居公園）	
10.1.		●設立準備室（室長：澤田文化財保護課課長代理）発足
10.8.-11.13.	２条のレールでひとつにむすばれた日本列島展	
1989（昭和64年、平成元年）		
1.		●第三セクターによる新科学館運営提案
3.	電気科学館条例廃止	●科学館条例承認
4.1.	蒲一昭社会教育部長、第９代館長を兼任	
4.29.-5.7.	サイエンス・クイズ	
5.14.-5.26.	閉館記念万年カレンダー付ポスター配布	
5.27.-5.31.	全館無料開放	
5.31.	電気科学館閉館フィナーレ	
6.		●運営主体・財団法人大阪科学振興協会発足
8.	建物引渡し、新科学館へ資料移設	●建物竣工、引渡し
10.7.		●開館